

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	確かな学力の定着
目標（評価規準）	子どもが、子どもの思いを、子どもの言葉で、子どもに向かって話している。	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校であることを「強み」と捉え、一人ひとりの児童の学習状況を多面的、多角的に把握しながら学力の三要素の定着、伸長を図る。</li> <li>・計算力の向上や語彙の増加などの基礎学力を定着させることができる授業づくりを推進する。</li> <li>・体育、音楽、生活において2学年合同の授業を追求していく。</li> <li>・地域素材を教材化した問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を高める。</li> </ul>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○低・中学年の教科指導等の連携はとれていた。高学年においても体育を中心に教科指導連携を図ることができた。</p> <p>○基礎学力の定着のため、「算ノート」（基礎計算）の取り組みの充実を図り、計算力の向上が見られた。</p> <p>○「ことばのトレーニング」を実施し、語彙の増加につなげることができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「認め合い・高め合い」を意識した授業が十分に実施できなかった。</p>
各アンケート等の結果	<p>○保護者アンケートの「よい」「おおむねよい」評価が年々増えている。</p> <p>○複数学年による合同授業や異学年担任による交換授業については、児童、保護者評価とも高評価である。児童の学習意欲の向上に結び付いている。</p> <p>○家庭学習については教職員間の共通理解を図ってきた。徐々にではあるが家庭学習への取り組みは改善している。引き続き家庭への協力依頼を継続していく。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>各アンケートを通じて小規模校の強みを生かした教育活動は効果があると認められる。2年間の学びを見通した教育活動もスムーズに行えている。この評価結果を生かし、さらなる児童の学力向上、よりよい人間関係の構築を目指し、以下の点を次年度へ向けての方策する。</p> <p>○技能教科において学習指導要領の目標を踏まえながら、2年間を見通した複数学年による合同授業、また、多面的な児童理解も含め、教科担任制を意図した異学年担任による交換授業の実施を進める。</p> <p>○基礎・基本の定着については引き続き検討を要する。語彙の増加についての手立てをとったが今後も継続していきたい。語彙を獲得する過程で、読み続ける、書き続ける、考え続けるというような学習体力、学習持久力の向上を図る。</p> <p>○話し合い活動の充実には引き続き教職員の研修を図っていく。視点、観点を明確にした授業研究や、外部講師の招聘、各種研究会への職員派遣を通して授業力の向上を目指す。</p>
学校関係者評価結果	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算力の向上と語彙の増加を継続する。国語を中心とした教科学習や夏みかんタイム、家庭学習の工夫などで改善を図っていく。</li> <li>・学校研究を主に「主体的・対話的・深い学び」の追求、学習評価をもとに授業改善のための学校研究を通して教職員の授業力向上を図っていきたい。</li> <li>・学習指導要領の各教科の目標を踏まえながら、2学年を見通した複数学年の合同授業を継続する。</li> </ul>

本年度の重点	2	支持的風土の確立
目標（評価規準）	よりよい人間関係を築きながら、すべての児童が自分らしく、生き生きと活動している。	
重点に係る現状 設定理由	・お互いの個性を認め合いながら、良好な人間関係を育める学級づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○基本的な生活習慣の維持や規範意識の高揚、いじめ予防のためのよりよい人間関係の構築、安心安全な学習活動の保障に努めた。また、積極的に児童に働きかけ、信頼関係の構築に努めた。</p> <p>○職員会議において全児童の状況を全教職員が把握するため、児童理解を中心とする時間を設けた。</p> <p>○ケース会議を設け、学習や家庭環境に課題のある児童への対応策を協議した。</p>
各アンケート等の結果	<p>○保護者アンケートの「よい」「おおむねよい」評価が年々増えている。</p> <p>○保護者評価から、規範意識の向上を図る必要性を感じた。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○保護者評価から、児童からの話を十分に聞き、保護者に丁寧に伝えていく必要を感じた。また、教職員間の情報交換を密にしていかなければならないことも分かった。</p> <p>○道徳教育を中心に、規範意識の向上をねらった授業を推進する。</p> <p>○児童理解のための職員会議における時間の確保、ケース会議は今後も続けていく。</p>
学校関係者評価結果	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応は今後も続いていく。児童は緊張した学校生活を送ることになる。児童理解を十分に深め、保護者と連携しながら、よりよい人間関係の構築ができるよう、きめ細かな情報収集、共通理解を図っていく。</p> <p>・児童間のよりよい人間関係の構築のため、総括教諭を中心とし、児童の実態について職員間の共通理解を図っていく。</p>

本年度の重点	3	地域とともにある学校づくりの推進
目標（評価規準）	保護者、地域と協働しながら教育活動を進めている。	
重点に係る現状 設定理由	・歴史と伝統のある三崎小学校、地域に愛されている三崎小学校であることを常に意識し、その期待に応えられるよう「三崎らしさ」を大切にしつつ、家庭・地域と協働した学校づくりを進める。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○校外学習を実施することで児童の取り組みを知ってもらうだけでなく、顔を覚えてもらうことで防犯にもつながった。ゲストティーチャーもお願いし、地域との連携を図ることができた。</p> <p>○総合的な学習の時間、生活科において、北原白秋を中心に地域素材の教材化を図った。</p> <p>○学級通信では子どもたちの学級生活の様子を保護者に発信している。写真や児童のノートの写しも内容に入れ具体的な学習内容や学習方法を周知することができた。学校だよりでは、学校の経営方針、学校長の意図、行事予定や児童の活躍等を広くお知らせした。また、学区の区長にも配布し、学校の取り組みを知ってもらうことができた。</p>
各アンケート等の結果	<p>○保護者アンケートの「よい」「おおむねよい」評価が年々増えている。</p> <p>○地域素材の教材化については保護者からの評価は高いが、教職員は不足を感じている。</p> <p>○学校だより、学級通信は学校の様子が伝わるとの評価があった。今後もより丁寧にわかりやすく情報を発信していく。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>開校150周年記念事業を推進しながら、改善のため以下の点を次年度へ向けての方策とする。</p> <p>○毎週末の学級通信を負担に感じている職員もいる。学習予定については先を見通しながら学習用具の準備も含めお知らせしていかなければならないが、学級担任の意図や学習の様子などを周知するタイミングは各担任の判断に任せる。</p> <p>○見守り活動の再検討は今後も継続していく。コロナ対策を講じながら、運動会や6年生を送る会への招待など、地域の方が学校へ足を運ぶ、児童と接する機会を増やしていく。</p> <p>○三崎は素材、人材の宝庫である。開校150年にむけて地域素材の教材化や単元化、また、地域人材を学習活動などに活用することで、地域に根差した学校、地域に開かれた学校、地域に愛される学校づくりを進めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域が必要とする情報を職員間で共通理解し、幅広い情報発信に努める。</li> <li>・外部講師の積極的な活用、地域素材の教材化、地域との交流の活性化、PTAの運営体制の見直しなど、家庭、地域との連携を強化していく。</li> <li>・150周年行事の成功に向け、事業を推進させ地域との結びつきを強化していきたい。</li> </ul>